

菅橋彦と赤松麟作

2016年10月14日(金)―10月26日(水)

鳥取に生まれた日本画家・菅橋彦(1878～1963)と岡山に生まれた洋画家・赤松麟作(1878～1953)。同じ年に生まれた二人は、幼くして大阪に移り、のちに絵の道を志しました。戦後には、当館付設の美術研究所において、二人とも講師を務めています。分野は異なるものの、近代の大阪を舞台に活躍した二人の画家をあわせてご紹介します。

桜の宮 菅橋彦 昭和30年(1955)
本館蔵(岸田卯兵衛氏寄贈)

小さな妖怪たち

2016年10月14日(金)―10月26日(水)

古来、異界に対する畏怖や慈悲の心により、さまざまな妖怪たちが造形化されてきました。江戸時代の美術の中には、それらを積極的に楽しんでいた様子もうかがえます。「百鬼夜行絵巻」や「化物草紙」をはじめ、版本の挿絵や根付・印籠などに見られる、怪しくもどこか可愛いらしい妖怪たちをお楽しみください。

百鬼夜行絵巻(部分) 原在中
江戸時代・18～19世紀 本館蔵(望月信成氏寄贈)

大阪蔵鏡―中国古鏡の美

2016年10月14日(金)―10月26日(水)

銅鏡は中国工芸の精華です。日本では古くよりこれを珍重してきました。このたび大阪歴史博物館所蔵の中国銅鏡と当館所蔵品とをあわせて陳列いたします。奇しくも大阪に伝来した中国の鏡を通して古代人の世界観や美意識に触れ、愛玩した人々のまなざしを追体験するまたとない機会です。お見逃しなく。

青銅 団華文鏡
隋～唐時代初期・7世紀
本館蔵(田万コレクション)

近年の寄贈作品

2016年10月14日(金)―10月26日(水)

今年、開館80周年を迎えた当館の所蔵作品数は約8,400件を数えますが、近年に収蔵された作品の大半は一般市民からの寄贈によるものです。美術館に寄せられたご厚意、ご支援に対する感謝の気持ちを込めて、2003～2015年度寄贈作品(約700件)の中から一部をご紹介します。

加太瀬戸 田川勤次
昭和45年(1970) 第47回春陽展
本館蔵(田川啓祐氏、田川泉二氏寄贈)

明清～近代の書画

2017年2月18日(土)―3月20日(月・祝)

明清五百年、近代百年。明の建国(1368)から中華人民共和国成立(1949)前夜まで、六百年近くにおよぶ長き時間の中で、中国の書画は実に多様な展開をみせました。時代の機運、場の気風、各人の個性など、様々に関係し合い生み出された作品の数々をご覧ください。

田家秋光図(部分) 倪田
清・光緒29年(1903) 本館蔵

陶芸家・富本憲吉のデザイン

2017年2月18日(土)―3月20日(月・祝)

富本憲吉(1886～1936)は、第1回重要無形文化財(いわゆる人間国宝)の認定を受け、のちに文化勲章を受章した陶芸家ですが、人まねではない独自の模様や造形に終世こだわり続けました。富本憲吉の創作の軌跡をお楽しみ下さい。

染付 辻堂模様方形陶板 富本憲吉
大正14年(1925)
本館蔵(辻本コレクション)

硯箱の世界

2017年2月18日(土)―3月20日(月・祝)

硯箱は、硯・墨・筆・水滴・錐・小刀などの文房具を納める箱。日本では文房具よりも収納する箱に贅をこらし、蒔絵や螺鈿でうたや物語・花鳥風月などの日本的な意匠を施して珍重してきました。硯箱にみる瀟洒な和の意匠をご鑑賞下さい。

和歌浦蒔絵文台・硯箱 山田常嘉
江戸時代・17世紀 個人蔵

天神さま

2017年2月18日(土)―3月20日(月・祝)

菅原道真(845～903)の霊を慰めるためにまつられた天神は、道真が優れた学者であったことから、今も「学問の神様」として広く親しまれています。大阪の佐太天神宮、菅生天満宮、京都の和東天満宮の伝来品を中心に、天神信仰に関わる美術をご紹介します。

厨子入 押絵渡唐天神像 明正天皇
江戸時代・17世紀 大阪・佐太天神宮蔵